

このまえから「なかとみのかまたり」という人のはなしをしています。その人はなくなるまえの日にてんのうに「藤原」というみょうじをさすけられたのでした。

きょうはそのあとで、ふじわらさんのなまえをまねしてたくさんのみょうじができた、というはなしをしてみましょう。

きょうとにみやこがうつったあとも、かまたりのしそんたちはずっとちからをもちます。とくに、「ふじわらのみちなが」という人は「このよの中はじぶんのものだ」といういのうたをよむほどでした。おやしきにすみ、おいしいものをたべ、ごうかなきものをきて、自分のむすめをつぎつぎとてんのうのおくさんにして、いばっていたのです。

まわりの人たちはふじわらさんたちをうらやましがります。そこで、藤というじをもらってじぶんのみょうじにあてる人ができてくるのです。

佐渡の人は佐藤に、近江の人は近藤に、遠江の人は遠藤に、加賀の人は加藤にというように、すんでいるばしよのなまえと藤をがつたいさせるとみょうじができます。

ばしよではなく、しごとががつたいさせると兵隊をしていた兵藤とか、工作をしていた工藤とかになります。

かんじんの本家はいまふじわらをなのってはいません。また、みょうじのなりたちにはいろいろなばあいがあるので、これがすべてではありません。ただ、いえるのはかまたりのしそんは、みんながあこがれてみょうじをかえるほどの人たちだったということです。

おんどくサイン↓

① ふじわらさんのなにのはなしでしょう？

（ ） かんむり （ ） みょうじ （ ） せいかく

② ふじわらのかまたりはもともとなんというみょうじでしたか？

（ ）

③ このよの中はじぶんのもの、といううたをよんだのはなんという人ですか？

（ ）

④ ③の人はじぶんのむすめをだれのおくさんにしていたのかな？

（ ）

⑤ 藤というじははなのなまえにもなります。なんというはなでしょう

（ ）

⑥ かまたりのしそんはいまふじわらさんというのですか？それともちがいますか？

（ ）

⑦ 佐渡というのはばしよのなまえですか？しごとのはなまえですか？

（ ）

⑧ みちながはどんないえにすんだかな？

（ ）

⑨ あっているものに○をつけましょう。

（ ） かまたりはしんでからなかとみになった。

（ ） かまたりはしぬまえにふじわらになった。

（ ） みょうじはかえられなかった。

⑩ おもったことを五行でまとめましょう。

できればは？



このまえから「なかとみのかまたり」という人のはなしをしています、その人はなくなる前の日にてんのうに「藤原」というみょうじをさすけられたのでした。

今日はその後で、藤原さんの名前をまねしてたくさんみょうじができた、という話をしてみましょう。

京都にみやこがうつった後も、かまたりのしそんたちはずっと力もちます。とくに、「藤原道長」という人は「このよの中はじぶんのものだ」という意味のうたをよむほどこでした。おやしきにすみ、おいしいものを食べ、ごうかなきものをきて、自分のむすめをつぎつぎとてんのうのおくさんにして、いばっていたのです。

まわりの人たちは藤原さんたちをうらやましがります。そこで、藤原というじをもらって自分のみょうじにあてる人ができてくるのです。

佐渡の人は佐藤に、近江の人は近藤に、遠江の人は遠藤に、加賀の人は加藤にというように、すんでいる場所の名前と藤をがつたいさせるとみょうじができます。

場所ではなく、仕事とがつたいさせると兵隊をしていた兵藤とか、工作をしていた工藤とかになります。

かんじんの本家はいま藤原をなのつてはいません。また、みょうじのなりたちにはいろいろな場合があるので、これがすべてではありません。ただ、いえるのはかまたりのしそんは、みんながあこがれてみょうじをかえるほどの人たちだったということです。

おんどくサイン↓

音読サイン↓

① 藤原さんのなにの話でしょう？

（ ）かんむり（ ）みょうじ（ ）せいかく
② ふじわらのかまたりはもともとなんというみ
ようじでしたか？

（ ）
③ このよの中は自分のもの、といううたをよん
だのはなんという人ですか？

（ ）
④ ③の人はじぶんのむすめをだれのおくさんに
していたのかな？

（ ）
⑤ 近江に住んでいる人はどんなみょうじをつけ
る人ができましたか？

（ ）
⑥ かまたりのしそんはいまふじわらさんという
のですか？それともちがいますか？

（ ）
⑦ 佐渡というのはばしよの名まえですか？しご
とのなまえですか？

（ ）
⑧ みちながはどんないえにすんだかな？

（ ）
⑨ あっているものに○をつけましょう。
（ ）かまたりはしんでからなかとみになった。
（ ）かまたりはしぬまえにふじわらになった。

（ ）みょうじはかえられなかった。
⑩ おもったことを五行でまとめましょう。

できばえは？



この前から中臣鎌足の話をしていきますが、彼は死ぬ前の日に藤原鎌足になったのでしたよね？このあと、彼の子孫がどうなって、藤原の名前がどうなるのか簡単に説明します。

彼の子は藤原不比等ふじわらのふひとといいました。すごい権力者です。娘の宮子を文武天皇の夫人にしたのですが、この人が生んだのがちの聖武天皇しんむ。東大寺の大仏を作らせた天皇です。（宮子は養女で、もと紀州の海女という説もあります。）藤原不比等には四人の男子がいて、みんな権力を持っていましたてんねんとうが、天然痘にかかって次々亡くなります。それでもその子孫は力を持ち続け、平安時代には藤原道長など、この世は我が世だ、といった歌をよむほどだったのです。六年生の社会の教科書にも出てきます。

まわりの人たちは藤原さんたちをうらやましがります。そこで、藤という字をもらって自分の苗字みょうじにあてる人ができてくるのです。

佐渡の人は佐藤に、近江おうみの人は近藤に、遠江とおとうみの人は遠藤に、加賀かがの人は加藤にというように、住んでいる場所を頭に置いて藤原氏にあやかるようにつけた場合がこれです。

場所ではなく、仕事を頭に置くと、例えば兵隊をしていた兵藤とか、工作をしていた工藤とかになります。

かんじんの本家の藤原さんの子孫はこのあと九條くじょうや猪熊いのくまといった公家くけになっていくので、今藤原を名のつてはいません。また、苗字の成り立ちにはいろいろな場合があるので、これがすべてではありません。ただ、いえるのは、藤原鎌足の子孫はみんなあこがれる存在だったということです。音読サイン↓

① 何の話でしょう？

（ ） ② 鎌足の子は何という人ですか？

（ ） ③ 東大寺を作らせた人から見ると、鎌足はどういう関係にあたりますか？

（ ） ④ 不比等の四人の子の死因は何ですか？

（ ） ⑤ この世は自分の世だ、という歌をよんだのはだれですか？

（ ） ⑥ この人は何時代の人ですか？

（ ） ⑦ うらやましがるの意味を書きましょう。

（ ） ⑧ 藤という字を住所につける場合と、もう一つ何につける場合がありますか？

（ ） ⑨ あっているものに○をつけましょう。

（ ） ⑩ 上の子の感想を五行でまとめましょう。

（ ） ⑪ 藤原宮子は尼あまだったかもしれない。

（ ） ⑫ 上の話の感想を五行でまとめましょう。

できればは？

